

令和元年度 徳島北高等学校 学校評価結果 ダイレクト版

保護者の皆様には、日頃から本校教育活動に格別の御支援・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。さて、本校では、年度当初に「学校評価計画」を作成し、その計画に基づいて教育活動を展開しております。昨年12月には、保護者・生徒・職員を対象にアンケートを実施し、本年度の成果について検証を行いました。その概要をまとめましたので御覧ください。今後は、この結果を元に、教育活動の改善に取り組んでまいります。アンケートに御協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

令和2年3月22日

徳島県立徳島北高等学校 校長 長篠 俊文

これは、令和元年度学校評価総括評価表から主なものを抜粋して掲載したものです。

生活習慣・交通安全指導 評価基準(A十分達成できた,B概ね達成できた,C達成できなかった)

重点目標	
1 生活習慣(服装頭髪の整正, 時間厳守, 挨拶の励行)の確立, 健全な生活態度を育成する。 2 交通ルールを遵守させ, 安全意識の向上を図る。 3 携帯電話等の安全な使い方を通して, 情報モラルの育成を図る。	
評価指標	
1 ①頭髪・服装の違反者を減少させ, 再点検指導の生徒の割合が1%以内である。 ②遅刻者数が昨年度より5%減少する。 ③教員による登校指導を月1回, 生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。 2 自転車交通事故件数が10件以下である。 3 携帯電話の安全な使い方についての講演会を1回以上実施する。	
達成度	総合評価
1 ①再点検を実施した生徒は全体の0.5%であった。 ②2学期末の状況で, 遅刻者数は47%減少した。 ③登校指導を月1回, 「あいさつ運動」を学期に1回実施できた。	A
2 自転車交通事故が11件増加した。(本年度28件)	C
3 計画通りの携帯電話安全教室を実施できた。	B
来年度への改善と方策	
1 服装頭髪が大きく乱れている生徒はいないが, スカート丈を短くしている生徒や登下校時にブレザーを着用していない生徒, またカラーリップを付けている生徒が少数見られる。月初めの点検時だけでなく, 常日頃から清潔感のある身だしなみができるように連携協力をはかりたい。 2 本年度は自転車による交通事故が多く発生した。今年度は1年生を対象に交通安全教室を行ったが, 来年度は全校生徒を対象に行いたい。事故状況を見ると, 交差点における前方確認不足や生徒自身の不注意が原因となったケースがほとんどであった。また, 正門周辺の街灯の少なさも一因と考える。 3 ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し使用しているが, それぞれの使用法やトラブル等の把握が困難であるため生徒の実態が正確につかめない。指導する側も関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。	

人権教育

重点目標	
1 ホームルーム活動(人権)の他, 委員活動や日々の活動など様々な機会を捉えて生徒の人権意識の高揚を図り, 啓発活動に努める。 2 全職員でいじめ防止をはじめとする人権教育の充実に取り組む。	
評価指標	
1 ①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合が80%以上である。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合が60%以上である。 2 ①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ②「学校は好ましい人間関係構築のため行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が90%以上である。	
達成度	総合評価
1 ①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合は81.7%であった。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合は54.4%であったが, 前年度より1.2%であるが増加した。	B
2 ①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ②答えた生徒の割合は83.6%であった。	
来年度への改善と方策	
「人間への信頼」を生徒の心に醸成できるよう, 人権委員会だよりの内容充実や生徒の自主活動を通じていじめを許さない学校づくりを目指す。生徒一人一人を尊重し, また面談等を実施していじめ防止に取り組む。	

学校行事・生徒会活動・部活動

重点目標	
1 学校行事(学校祭・球技大会等)の活性化を通して, 生徒の自主的・自律的な行動を育成する。 2 ホームルーム活動や部活動における友好的な人間関係の構築を中心に, 豊かな心を育成する。 3 部活動の活性化を通して, 生徒一人一人の個性や創造性を伸ばさせ, 何事にも積極的に取り組む態度を育成する。 4 国際的視野を持ち, 国際社会や地域社会に貢献する姿勢を育成する。	
評価指標	
1 学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が80%以上である。 2 ①「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み, 友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が80%以上である。	

②「望ましい人間関係を構築できている」と回答した教員及び保護者の割合が80%以上である。	
3 「部活動は学校生活を充実させるものとなっている」と回答した生徒の割合が80%以上である。	
4 地球市民講座で「国際的視野を持つことができた」と回答した生徒の割合が80%以上である。	
達成度	総合評価
1 学校評価アンケートでは、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が86.9%であった。	B
2 ①学校評価アンケートでは「私は、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間を築くことができた」と回答した生徒の割合は、86.9%であった。 ②学校評価アンケートにおいて、「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合は、97.6%であった。	A
3 学校評価アンケートでは、生徒79.8%、保護者92.2%、教職員95.2%。	B
4 「グローバルな視野の育成に役立っている」と回答した生徒の割合は78.3%	B
来年度への改善と方策	
1・学校祭の日程について 天候が不安定な時期であり、食品バザーや体育祭などもあることから、日程に苦慮するが、進路指導などの観点から大きく変更することは困難であると考えられる。準備期間が不足しないよう、年度ごとにベストな日程を考えたい。	
・体育祭種目の精選について 悪天候による競技の短縮も考えられることから、競技順序や出場人数、男女比を検討し、かなり改善できたが、年度ごとにベストな種目・日程を考えたい。	
・修学旅行の行先・日程について 修学旅行検討委員会で検討している。普通科・国際英語科ともに北海道方面で、徳島空港発着便がとれるよう日程を工夫していきたい。	
・予餞会について 予餞会の日程、内容も検討を要する時期にきている。従来の伝統を生かしながら、より良い方向性を模索していきたい。	
2 良好な人間関係構築のために、学校行事等でホームルームや生徒会などで、自主的な活動を推進していくことで、生徒同士の人間関係を深めるようことを検討している。	
3 「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した生徒と保護者・教職員のあいだにギャップがあり、かなりの意識の違いがみられる。この原因を究明し、課題解決の方策を検討していきたい。部活動参加率は高いが、特に1年生は原則全員入部になっているので、登録したものの積極的に活動できていない者もいる可能性がある。来年度は、1年生の原則全員入部はしない方向で検討したい。	
4 来年度も地球市民講座を開講し、充実したものになるよう内容を精選し準備したい。テーマや講演内容を年度当初から検討していきたい。	

学力向上・進路指導・キャリア教育

重点目標		
1 主体的な学習習慣の確立と確かな学力の育成を図る。		
2 自己のキャリア形成を推進し、早期に進路目標を設定させ、主体的に自分の進路を決定させる。		
3 社会に貢献できる人材の育成に向けて生徒の個性や創造力を伸長させ、進路希望を実現させる。		
評価指標		
1 ①家庭学習1時間以上の生徒が、90%以上、学年平均家庭学習「(学年)+2」時間以上の生徒が50%以上である。		
②「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身に付いている生徒の割合が70%以上である。		
③「学校の授業内容を理解している」と回答した生徒の割合が80%以上である。		
④1・2年生の学年単位で、補習の出席率が95%以上である。		
⑤校外模試における各科目の校内平均点が、全国平均以上である。		
2 ①1・2年次にオープンキャンパスや看護体験、大学の講座、または体験授業等の活動に1回以上参加した生徒の割合が100%である。		
②ポートフォリオを利用し、校内外での活動の振り返りを行う生徒の割合が100%である。		
③2年生の11月末の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合が95%以上である。		
④英語外部検定試験への対応として、2年終了までに英語の資格試験やアセスメントを受験した生徒の割合が100%である。		
3 就職希望者や保護者と定期的に面談を行い、2学期末までに就職未決定者が0名である。		
達成度	総合評価	
1 ①9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生86.3% (89.6%)、2年生92.2% (86.4%)、3時間以上は、1年生25.2% (41.0%)、4時間以上は、2年生 5.8% (24.7%) ※括弧内は休日	B	
②1年生70.7%、2年生65.5%。		
③「理解できている」と肯定的な回答は78.5%で、概ね達成できている。		
④1、2学期の補習出席率は1年生96.6%、2年生96.6%		
⑤11月の進研模試では、1年生：国語+3.9点、数学+4.1点、英語+3.8点で全て上回った。2年生：国語+3.9点、数学+2.6点、英語+0.5点、地歴・公民、理科は日本史B、現代社会、地学基礎以外で全国平均を下回った。		
2 ①オープンキャンパスや各種体験活動等には、83.3%の生徒が1回以上参加。		
②紙媒体もしくはデジタル形式を利用し、100%の生徒がポートフォリオ形式で活動を振り返ることができた。		
3 就職希望者は2学期末までに、全員が就職内定を頂くことができた。		
来年度への改善と方策		
1 ①②③家庭での学習習慣の確立 ・1年生第1学期前半の初期指導が高校生活全般に大きく影響するのは明らかであり、学年や教科と連携して、進路意識の高揚と家庭学習の重要性を繰り返し伝える。特に個人面談の機会を重視し、担任から		

具体的なアドバイスを伝えられるよう、面談で指導する項目やワークシートを学年で統一し、生徒へ提示する。

- ・家庭での学習効果やその成果を生徒が実感できるようなテスト(定期考査や実力テスト)を作成・実施する。
- ・部活動後の下校時間を徹底する。
- ・予習して授業に臨む姿勢を養う。
- ・生活実態調査を活用し、個人面談を行う。
- ・授業で扱うべき内容を精選し、家庭学習と連動することの重要性を生徒が実感できるように授業研究や改善に取り組む。
- ④補習出席率の向上
 - ・学年や担任と連携して早めの指導を行う。欠席が多い生徒は、放課後学習などを計画する。
 - ・遅刻指導と同様に、回数に応じて保護者に来校を依頼し、三者面談を行う。
 - ・余裕を持って登校し、落ち着いた状態で補習に臨めるよう、就寝・起床時刻等を含めて時間の使い方を再考する機会をホームルーム活動等で設ける。
 - ・補習で扱うべき内容を精選し、生徒がその効果を実力テストや校外模試で実感できるように計画を立てる。
- ⑤模試で通用する学力の養成
 - ・定期考査や実力テストの問題を分析し、模試や入試につながるよう改善する。
 - ・模試を分析する学年教科会を実施する。
 - ・2年生は、理科、地歴の補習を3学期から実施する。

心とからだの健康

重点目標	
1 自分の心や体の健康に関心を持ち、課題解決に向けて実践できる生徒を育成する。	
2 生徒が心身ともにはつらつとした学校生活を送れるよう支援する。	
3 生徒が充実した学校生活を送れるよう支援する。	
評価指標	
1 ①「自分の心やからだの健康に関心を持ち、健康な生活を心がけている」に「あてはまる」と回答した生徒の割合が85%以上である。	
②「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」について「あてはまる」と回答した生徒及び保護者の割合が85%以上である。	
2 ①カウンセリングデーで、教員の相談室待機が100%である。	
②不登校傾向にある生徒や気になる生徒の把握をして、カウンセリングの実施など適切な支援を図る。	
③不適応の症状が見受けられる生徒の把握に努め、早い段階で校内の関係者と連携を図る。	
3 福祉的な募金活動に年2回以上協力する。	
達成度	総合評価
1 ①83.0%の生徒が「あてはまる」と回答した。	B
②「学校では安全や健康管理に十分注意している」について、生徒の82.5%、保護者の88.4%が「あてはまる」と回答した。「学校では心身の健康や安全に配慮した指導が行われている」については86.4%の保護者が「あてはまる」と回答した。	
2 ①カウンセリングデーの相談室待機は100%達成できた。	
②担任等と適宜連絡を取り、適切に対応した。	
③スクールカウンセラーと連携し、早期に対応した。	
3 「複十字シール運動」と「手足の不自由な子どもを育てる運動（愛と友情の絵はがき）」「赤い羽根共同募金」「書き損じハガキ等の寄付」に協力した。	
来年度への改善と方策	
1 生徒が自己の健康管理に自主的、主体的に取り組めるよう支援することが重要である。そのためには家庭との連携が不可欠である。本年度の取組は昨年度の学校保健委員会において、PTA役員の方々からいただいた御意見を参考に実施した。次年度もさらに発展させるよう取り組み、その結果を保健だより等を通じて家庭へも報告できるようにしたい。	
2 スクールカウンセラーが配置されたことにより、教育相談の体制が大幅に充実してきたと思われる。継続的に活用している生徒もいることから、今後の運営のあり方について検討が必要である。また、教育相談室の環境整備も徐々に整いつつある。今後も効果的にカウンセリングができるよう進めていきたい。スクールカウンセラーとの連携を中心に、校内の連携はもとより、校外の関係機関とも連携を取り、生徒の支援に繋げるよう進めていきたい。	
3 福祉的な活動として、単に募金活動を行うというのではなく、社会福祉について理解した上で活動することが大切である。そのため、事前に厚生委員会での学習会を行うなど、募金活動の意義や活動等について理解を深めてから実施したい。	

環境・防災教育

重点目標	
1 SDGsへの理解を深め、校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。	
2 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らの身を守るのみならず、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立つことができる人材を育成する。	
評価指標	
1 ①節電・節水を意識した学校生活を送り、前年度比3%使用量を節減する。	
②年間8回以上「ゴミゼロの日」を設定し、学校全体で環境問題について考えさせるとともに環境・防災委員以外の参加生徒が毎回60人以上である。	
2 ①地震・津波及び地震・火災対応避難訓練を、それぞれ1回早期に実施する。	
②校外で行われる防災関係の行事を案内し、参加生徒が15名以上である。	
達成度	総合評価
1 ①12月現在の比較では、電気使用量約7%減、水道使用量約7%減ある。	B
②今年度3回実施したが、全てで60人を上回っており、最も多い時、全体で105人であった。	

<p>2①4月に地震・津波避難訓練を行い、5月には地震・火災対応避難訓練を行った。 また12月には想定外大津波避難訓練を実施した。 ②啓発放送等は充分実施できなかったが、避難訓練等の機会が意識高揚に繋がった。</p>
来年度への改善と方策
<p>1①こまめに節電・節水の声掛けや教室掲示などを行うとともに、トイレや空き教室（芸術・体育時など）、長時間使用しない体育館や多目的ホールなどの消灯を実施する。 ②校内で行える身近なボランティア活動であることを、掲示物や呼びかけなどで周知し、様々な生徒が参加できるように、状況を作り、参加者のさらなる増加を図る。</p> <p>2①避難訓練に対して、生徒一人一人が、主体的に緊張感を持って取り組めるようにするため、各クラス の環境・防災委員に対して、事前に内容について周知し、生徒たちで訓練ができるようなスタイルを構築したい。 ②避難訓練の回数が少ない2・3学期については、防災に関する啓発放送の回数を増やす等のほか、防災に関する新聞記事を利用したり、タイムリーな話題（問題）を提供するなど、意識を高める情報を提供していく。</p>

国際理解教育

重点目標	
<p>1 国際交流に積極的に取り組み、グローバルマインドを持った生徒を育成する。 2 異文化の中で生活できる機会を提供する。</p>	
評価指標	
<p>1 「国際交流関連事業は、グローバルな視野の育成や異文化理解に役立っている」と回答した生徒の割合が60%以上である。 2 海外研修（語学研修・派遣を含む）の参加者で「満足した」と答える生徒が90%以上である。</p>	
達成度	総合評価
<p>1 「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒は78.3%、保護者は88.8%。 2 AU語学研修においては100%の生徒が満足したと回答した。</p>	<p>A B</p>
来年度への改善と方策	
<p>海外からの留学生徒の積極的な受入は、本校生の意識を高めるのに効果的である一方、留学生の資質で生徒に悪影響が出る場合も考えられるので、今後どのような留学生を受け入れるべきか、できるだけ選ぶ段階で関わり本校職員の意見を取り入れていくことが大事であると考えます。</p>	

読書啓発

重点目標	
<p>1 図書館利用を通して、学力の基盤となる読書習慣の育成を図り、将来にわたって主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけさせる。 2 生徒が新聞記事を読み活用するきっかけづくりをする。</p>	
評価指標	
<p>1①一人あたりの図書館の年間利用回数を、8回 ②授業の図書館利用が、80回 2①「新聞を読み活用することは有意義であると思う」と答えた生徒が60%以上である。 ②図書委員の協力を得て、気になる新聞記事や注目の新聞記事を月1～2回展示する。</p>	
達成度	総合評価
<p>1①入館者はH30年度は8,850名、R元年度は8,543名である。本年度の1人当たりの図書館の年間利用回数は9.0回で、昨年度より0.2回減少したものの、目標は達成できた。 ②授業での計画的な図書館利用が増え、95回利用された。昨年度より10回の増加。 2①「新聞を読み活用することは有意義であると思う。」と答えた生徒は81.2%。 ②月2回程度輪番制で気になる新聞記事や注目の新聞記事を切り抜き展示することで、生徒に新聞記事に関心を寄せてもらう推進ができた。</p>	<p>B A</p>
来年度への改善と方策	
<p>授業への活用をきっかけに、自主的な調べ学習や読書活動に結びつけたい。主体的な学習をするには様々な資料や情報の窓口としての図書館活用は避けられないはずである。総合的な探究/学習の時間の活用の幅はさらに広げる必要がある。昨年に引き続き3学年のクラス読書会を5月に計画したが、時期としてはよかったと思われる。クラス読書会は、集団読書テキストだけでなく、調べ学習的な読書でテーマに沿って話し合いもできる学習的な読書会も提案したいが、実施までの準備作業を指導者にお願いしなければならないのが課題である。国語辞典を昨年度よりも国語科の寄贈等で増やした。辞書の引き比べも含め、利用を推進したい。</p>	

学校関係者評価について

本校では、学校評議員会において学校評価結果を協議いただき「学校関係者評価」としています。令和2年3月17(火)本校において開催された学校評議員会では、次のような御意見・御提言がありました。

- ① マイナス評価の理由を把握し、次年度に活かす必要がある。
- ② 自転車の事故が増加しているので、事故防止の徹底や交通マナーの向上を推進することが大切である。
- ③ 教職員の勤務の効率化を図ることが大切である。
- ④ 性的マイノリティーや発達障がい等、支援の必要な生徒に対して相談体制充実することが大切である。
- ⑤ 達成可能な目標の設定の見直しと生徒にヒアリングをしその意見を学校経営に活かしてはどうか。

これらの貴重な御意見・御提言を次年度に取り組みに活かしていきたいと考えています。

このリーフレットについてのお問い合わせは、

徳島北高等学校 学校評価委員会まで 電話 (088) 698-8004

